

2022年9月27日

受益者の皆さまへ

楽天投信投資顧問株式会社

**弊社ファンドの基準価額下落について**

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

2022年9月27日、以下の弊社ファンドの基準価額が前営業日比で5%以上、下落しましたのでご報告します。

**(1) ファンドの基準価額と騰落率**

ファンド名	基準価額 (円)	前営業日比 (円)	騰落率 (%)	(ご参考) 報告基準
楽天USリート・トリプルエンジン・プラス(リアル)毎月分配型	2,415	△140	△5.5	5%以上下落

※ 弊社公募投資信託のうち、DC（確定拠出年金）専用、ETF（上場投資信託）は除きます。また、基準価額が前営業日比5%以上（投資信託協会分類の特殊型（ブル・ベア型）ファンドの場合は、別に定める水準）下落のファンドで、上記に記載のないものは別途作成します。

**(2) 市況動向**

9月23日～26日の金融市場では、米長期金利の上昇に伴い、米国リート市場が大きく下落したほか、為替市場において、米ドル高／円安が進行したものの、対円でブラジル・リアルが急落しました。

9月23日の米国市場では、英国のトラス新政権が1972年以来最大規模となる減税策を発表したことにより英国債利回りが急騰し、それに合わせて米長期金利も一時大きく上昇する中、グローバルな高インフレと金融引き締めへの不透明感の高まりから、景気後退や業績下振れリスクを織り込む動きが市場参加者の間で一段と強まり、米国リート市場は軟調に推移する展開となりました。翌26日においても、英財務相が追加減税の意図を示したことや英中銀総裁が今後の利上げを躊躇しないという趣旨の発言をしたことなどから英国債利回りが再度急騰し、それに伴い米長期金利も大幅に上昇したことなどから米国リート市場は続落する展開となりました。

米ドル／円相場では9月22日に日本政府による米ドル売り／円買い介入があり、一旦は大きく円高に振れたものの、米長期金利の上昇等を背景に再び米ドル高／円安基調となりました。一方で、ブラジル・リアル／円相場では、原油先物価格の大幅下落や米長期金利の急上昇などを背景にブラジル・リアルへの下落圧力が強まりました。

### (3) 今後の見通し

9月20日～9月21日に開催されたFOMC（米連邦公開市場委員会）では、3月の利上げ開始以降5会合連続となる利上げが実施されたほか、今回の利上げ局面における政策金利のピーク水準の見通しが上方修正され、FOMC後のパウエル議長記者会見でも景気よりもインフレ抑制を重視する姿勢の継続が改めて示されるなど、全体としてタカ派（利上げに積極的な）内容となりました。今後、FRB（米連邦準備制度理事会）による金融引き締め姿勢が緩和に向かうためには、インフレが鎮静化したという明確な証拠が確認される必要があると考えられますが、そうした状況が確認されるまで一定程度の期間を要するため、当面の米長期金利は高止まりあるいは上昇圧力がかかりやすい状況が継続すると考えられます。また、継続的な利上げや長期金利上昇により米国経済の減速も予想され、米国リート市場についてはしばらく上値の重い展開となることが見込まれます。

米ドル／円相場については、日米金利差拡大観測などを背景とする円安圧力と日本政府によるドル売り介入への警戒感が拮抗する中、目先は方向感を欠く展開になると予想されますが、日米の経済ファンダメンタルズ自体に大きな変化は無く、また、今回の日本政府による介入が単独介入であることなどから、介入の効果は次第に後退し、米ドル／円相場は再び米ドル高／円安基調に回帰する可能性が高いと考えられます。

ブラジル・リアル／円相場においては、高金利通貨としての投資妙味の高さが引き続きブラジル・リアルの下支えとなることが想定される一方、10月に控えるブラジル大統領選挙にかかる不透明感や資源価格の上昇の一服など上値を抑える材料も散見され、当面は神経質な推移が続くと予想しています。

以上

## 【重要な注意事項】

## ◎投資信託に係るリスクについて

投資信託は、値動きのある有価証券に投資します（外貨建資産には為替変動リスクもあります）ので、基準価額は変動します。投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。投資家の皆様の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

また、投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なります。お申込みの際は投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面をよくご覧ください。

## ◎投資信託に係る費用について

《投資者が直接的に負担する費用》

- 購入時手数料  
上限 3.30%（税込）
- 信託財産留保額
  - ・購入時：上限 0.40%
  - ・換金時：上限 0.75%

《投資者が投資信託財産で間接的に負担する費用》

- 運用管理費用（信託報酬）  
上限 年率2.135%（税込）  
※一部のファンドについては、運用成果に応じて成功報酬をいただく場合があります。

## ■ その他の費用・手数料

上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）、目論見書補完書面等でご確認ください。

※その他の費用・手数料等については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率や上限額を表示することができません。

\* 費用・手数料等の合計額は、保有期間や運用の状況などに応じて異なり、あらかじめ見積もることができないため表示することができません。

## &lt;ご注意&gt;

上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、楽天投信投資顧問が運用するすべての公募投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、お申込みの際には、事前に投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

## &lt;当資料のお取扱いにおけるご留意点&gt;

- 当資料は楽天投信投資顧問が情報提供を目的に作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また、投資勧誘を目的とするものではありません。
- ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替変動リスクを伴います。）に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆様に帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。

## 楽天投信投資顧問株式会社

金融商品取引業者登録番号：関東財務局長（金商）第1724号  
加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会